



移転基本コンセプト

平成27年8月

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目次

- 01 はじめに
- 02 移転に関する基本姿勢
京都市立芸術大学が果たすべき三つの役割
- 03 全体コンセプト
- 06 先行移転コンセプト
- 07 先行移転のポリシー
- 08 先行移転 Terrace#0 の建築物イメージ
- 09 先行移転 Terrace#0 のフロア構成プラン
- 13 先行移転 Terrace#0 の施設と運営

はじめに

京都市立芸術大学 学長

新田清一



京都市立芸術大学は設立当初より、日本の伝統芸術を継承・刷新するとともに、日本の近現代芸術の屋台骨を支え、世界的にも高く評価されるアーティストたちを数多く世に送りだしてきた。その意味で、京都市立芸術大学は、京都市のみならず、日本の芸術文化のきわめて重要な火床の一つ、世界への発信基地の一つでありつづけてきた。

それが可能であったのは、濃密で質の高い教育環境(少人数教育)を、本学が京都市・京都市民の支えの上にこれまで維持してきたからであり、また時代に支配的な空気や価値観の外側に軸足を置き、そこから一定の距離をとった思考と表現の活動を丹念に積み重ねてきたからである。オーディナリー(「普通」や「常識」)に対するこのエクストラオーディナリーな自由の保持こそ、翻って芸術大学の京都市民に対する責任でもあると、先達たちは考えてきた。なぜなら、将来、戦争や不況や災害など、社会が苛酷ともいえる危機に陥ったときに、いつでも別の視点や考え方、つまりは「^{オルタナティブ}対案」を提示できる準備をしておくことこそ、大学の使命であり、責任だからである。

あらためて考えるに、「文化芸術都市」を標榜する京都がこれまでそれでありえたのは、内陸型工業都市としての「ものづくり」の文化とともに、学問・芸術・宗教の重層的な厚みが全国に抜きんでてあったからである。これら三つはいずれも、日常の背後、あるいはその外側に視点をとって、そこから日々の暮らしに風穴を空けるものである。とりわけ芸術は、かじかんだり、こわばったりしかけている暮らしに潤いや膨らみをもたらすとともに、そのような深呼吸のなかで日々の暮らしの再考と吟味へと人びとを誘うものである。そういうものとして、人びとは国家よりもはるかに古い人類史的な、草の根の活動を連綿と続けてきた。京都市民は、日常の外側にあるこの深い叡智や感受性に身近な場所であたりまえのように触れることによって、あるいは日々「習い事」を通じてそれらを身につけることによって、みずからの暮らしを捉えなおし、多視点的にふり返る力を得てきた。日々の暮らしに豊かな色合いを与えてきた。京都ならではの市民生活の厚みと包容力を生みだし、継承し、未来につないできた。

そういう文化の火床としての機能を、京都市立芸術大学は、今回の崇仁地区への移転を機会に、地域住民や京都市民、地場の産業や企業と手を携えつつ、さらに大きく飛躍させんと強く願うものである。

移転に関する基本姿勢

京都市立芸術大学が果たすべき三つの役割

芸術であること

日常的な価値観の外側に軸足を置くこと

直近のニーズに応えるのではなく、50年後、100年後、世界が危機に陥ったときに、こういう生き方、社会の作り方もあるという、対案(オルタナティブ)を示すことができるのが、芸術の責任である。

大学であること

新しい生き方、働き方、コミュニケーションの仕方についての社会実験をおこなう

一般社会ではリスクがあると思われることでも、大学では、こんなやり方があると、失敗を怖れずに取り組まねばならない。

地域にあること

新しい住民として、地域へのヴィジョンをもった場所・空間を創ること

働き方、次世代育成、市民相互のコミュニケーション、公共施設の利用方法(使用者と利用者の関係性)、まちづくりなどの〈社会実験〉の場とする。

Terrace

あら！ 《テラス》

《テラス》とは、内から外に張りだして、人と人びと、人と自然とを触れあわせる共有空間である。

—京都市立芸術大学新キャンパスを、「京都の市民文化の新たな火床」(床＝テラス)として位置づける。

《テラス》とは、複数の世代、異なる関心をもつ人びとが、地面から少し浮いた板敷きの場所で(つまり、目下の利害関心から自分を外し)、自分たちの現在と子どもたちの未来を語りあう場所である。

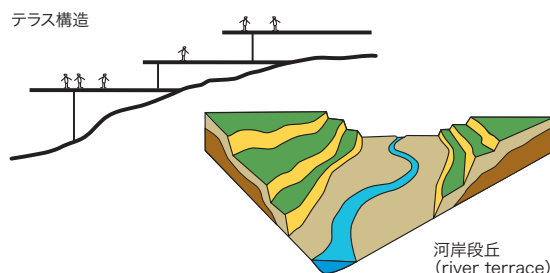
terrace[英]、terrasse[仏]

古フランス語では「盛り土」を意味する。< terra[ラ]土、大地、地球

- ・建築におけるテラス: 建物本体からの突き出し部分、屋根の上の面
- ・地形におけるテラス: 高低差のある平坦な面

→五感を刺激する共有空間

→懐かしい驚きで、うきうきと心踊る場所



全体コンセプト

1. 《テラス》としての大学

開く / 閉じる

市民に開かれた大学をめざし、人的交流を図るとともに、**専門性を確保するための、閉ざされた空間を形成する。**

機能的な観点から言えば、遮音性やセキュリティ(安全性・情報保護)が確保されるとともに、外部からは可能なかぎり可視化された空間とする。閉ざされてはいるが外部とは容易に繋がっているという**リバーシブルな関係**である。

- ・ オーディナリーな価値観を括弧入れし、そこから一定の距離をとって「深呼吸」できるエクストラオーディナリーな場を恒常的に形成する。
- ・ 芸術分野の次世代育成のために専門的な教育の水準を上げるとともに、そのプロセスそのものを市民との協働で推進してゆく。
- ・ 生き方の多様性が共存し、相互に活性化しあうバリアフリーな活動の十字路口とする。

2. 文化芸術都市・京都の新しい文化軸

文化軸の十字路

京都駅から東山へと向かう文化・芸術都市の新しい動線の形成

—京都駅—東本願寺—芸大—京都美術工芸大学—(京阪七条)—三十三間堂—国立博物館—智積院—という、宗教・大学・芸術の複合した大きな動線

五条以南の河川空間の再編:文化軸とパブリック(鴨川)軸の交差点に。

鴨川沿いの河原を市民の多様な活動を内包するパブリック・スペースという軸とのその交差点に。川縁・土手・校舎の三層が塩小路通の橋のたもとで崇仁地区と接続しているという、立体的な位置関係、**五条以南の河川敷整備の布石ともなり得る場所**であり、崇仁地区のなかの十字路(Carrefour)、京都市のなかの十字路、世界のなかの十字路という三層のテラスで、芸術創造と交流の活動を展開する。

全体コンセプト 文化軸の十字路



出町柳、下鴨神社周辺



丸太町橋周辺



三条 - 四條、先斗町周辺



敷地横、川辺の風景



敷地横、高架下

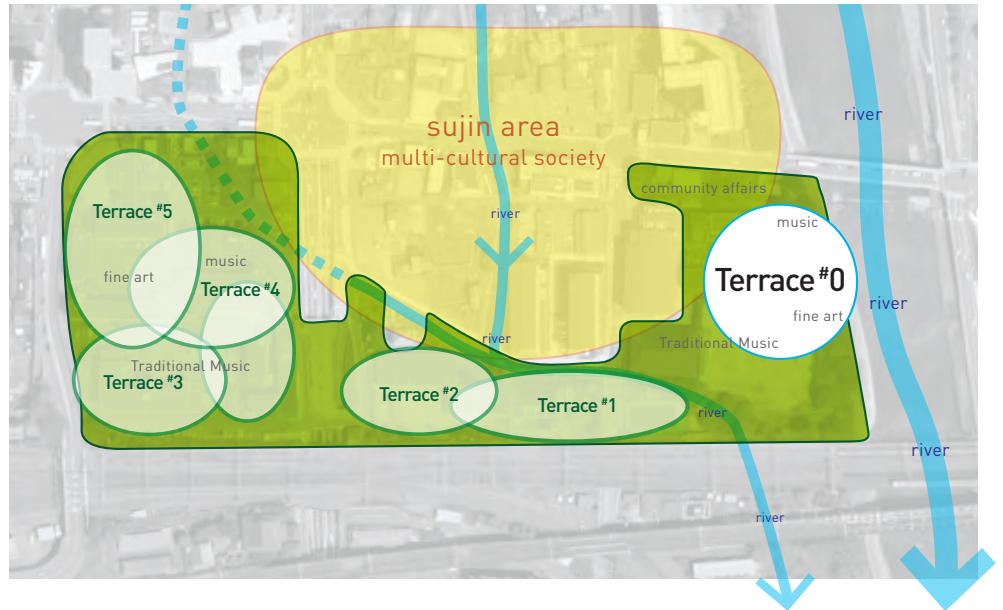


敷地南側、川辺の眺め

1100m

先行移転コンセプト

全面移転を有意義に導く「種子」(seeds)として位置づけ、大学と地域の有機的なつながりの先導や、現施設と先行施設をつなげるプロジェクトを企画する。



Terrace #0

今回の移転の理念《テラス》を象徴する機能を集約する施設

#0は、予想もしない活動や出来事が生まれてくるゼロ地点

つまりは創造の「火床」を意味するとともに、見えな いさまざまな孔を通して意外なものにつながり、新しい風景を生成させる活動をも意味する、象徴的な数字。

〈民〉〈産〉〈学〉のいきいきとした協働が 創造性を核とした新たな社会のありかたを導く場所

三層のテラスにおいて、大学内部の各機能と外部の公園・道路・店舗などの社会基盤、鴨川・高瀬川・東山の眺望・桜並木などの自然環境、柳原銀行資料館・小学校体育館など住民の歴史資産などを有機的に連続させるとともに、日常(教育活動・まちづくりなど)と非日常(制作・演奏などの創造活動)をつなげてゆく。

新しい地域文化圏の形成

KCUA先行施設を地域の賑わいの新たなコアとなる空間に

京都駅から京阪七条、東山へと向かう文化・芸術都市軸と、鴨川沿いの河原を市民の多様な活動を内包するパブリック・スペースという軸とその交点に。川縁・土手・校舎の三層が塩小路通の橋のたもとで崇仁地区と接続しているという、立体的な位置関係。

先行移転のポリシー

1. 協働と実験的社会的活動の場

大学と地域住民の全く新しい関係性

現・大学会館を刷新した施設として、地域のなかで新たな機能を果たす

2. 文化の生産者・発信者の形成の場所

文化の消費者ではなく

ユーザーがみずから作ってゆく公有空間

社会的な課題の解決のみならず「社会的な課題を生まない社会」の形成

環境のあり方についても、効率性・機能性のみならず、利用者の視点から、未来のそれを思考する実験的な提案をおこなう。

ビジネスとして立ち上げるソーシャルイノベーションの実験的展開。

機能の一部を周辺の社会資本に預ける(依存する)。移転地周辺には、駅、ホテル、ホール、食堂、工房、公園など様々な機能を持った資本が存在するので、大学内部の施設を開放すると同時に、それらの資本を活用し、有機的に連携させることで、内外の風通しをよくする。

3. 創造的な低コスト

太陽や自然の風や雨、気温の変化など自然エネルギーを最大限に活かす「パッシブ」な原理、環境志向型の新素材や工法の積極的な採用により、ランニングコストを含めた全体的な低コスト化をはかる

4. 可塑的な空間

更新可能な仕上げ切らず、作り込みすぎない建造物

未来の活動に開かれた、更新可能な可塑的な空間を造る建築の新手法の探究

先行移転コンセプトは、
みやこ
京都市基本計画「京プラン」へ
明確に対応させたものである。

京都市基本計画「京プラン」重点戦略II項目の中で「個性と活力あふれるまちづくり戦略」「地域コミュニティ活性化戦略」がある。先行移転コンセプトの "Terrace #0" は、この重点戦略に即応したものとして位置づけられる。また、基本計画の政策分野6文化に示されている内容は、京都市が考えている京都芸大の移転の枠組みの1つとして捉えられる。

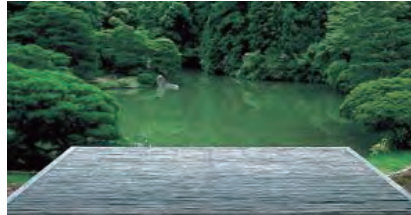
- 重点戦略1 市民ぐるみで、くらしやまちの変化を実現する「低炭素・循環型まちづくり戦略」
- 重点戦略2 ひとと公共交通を優先する「歩いて楽しいまち・京都戦略」
- 重点戦略3 歴史都市の品格と魅力が国内外のひとびとを魅了する「歴史・文化都市創生戦略」
- 重点戦略4 **魅力ある地域資源と既存の都市インフラを生かす「個性と活力あふれるまちづくり戦略」**
- 重点戦略5 世界が共感する「旅の本質を追求する観光戦略」
- 重点戦略6 京都の知恵や価値観を生かした「新産業創造戦略」
- 重点戦略7 夢と希望がもてる「未来の担い手育成戦略」
- 重点戦略8 子どもと親と地域の笑顔があふれる「子どもを共に育む戦略」
- 重点戦略9 仕事と家庭、社会貢献が調和できる「真のワーク・ライフ・バランス戦略」
- 重点戦略10 **だれもが参加したくなる「地域コミュニティ活性化戦略」**
- 重点戦略11 安心・安全と生きがいを実感できる「いのちとくらしを守る戦略」

先行移転 Terrace #0 の建築物イメージ

■Terrace的な建築構造



■月見台 桂離宮に代表される文化的空間



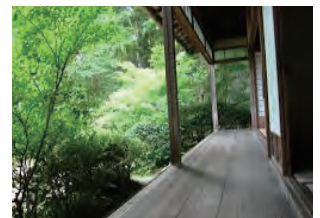
■神楽殿、能舞台地面から浮遊した芸能空間



■懸け作り 斜面、空中張り出し、川床



■縁、通路



■巨大な机のイメージ 様々な物が置かれるイメージ



■空中回廊



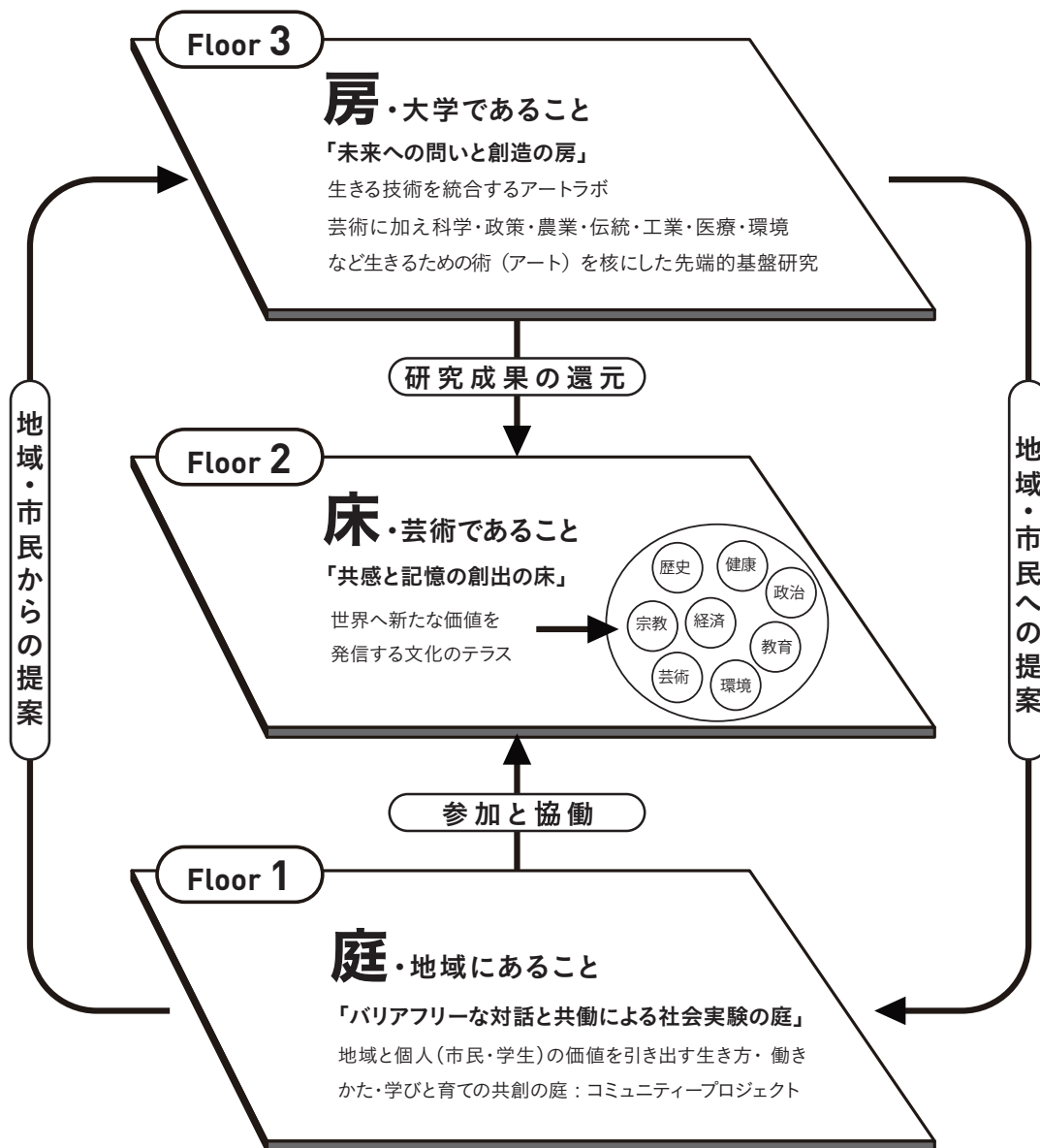
■図書館の書架 様々な分野がずらりと並んでいるイメージ



■TERRACE 的現代の建築



先行移転 Terrace#0 のフロア構成プラン



Floor 1

庭 地域にあること バリアフリーな対話と協働による社会実験の庭



地域と個人(市民・学生)の価値を引き出す生き方・働きた・学びと育てと多文化共創の庭

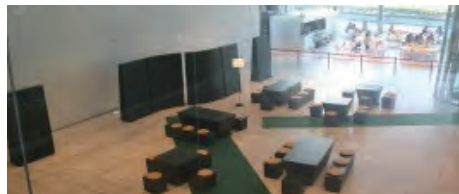
市民と大学との対話による @KCUA コミュニティープロジェクト



美術学部総合基礎実技やテーマ演習など横断型授業とも連携することで芸術・教育と地域コミュニティとのつなぎ目が生み出され多様な成長を生み出す。



・「考える」テーブル～「まちのカリキュラム：ラーニングコミュニティ」



芸術教育プロセスを地域や人々との触れ合いで豊かにしてゆく。人が集い語り合いながら地域社会、表現活動について考えていく対話のための場です。さまざまな協働団体がホストをつとめ、黒板に仕立てたテーブルをメディアとして、ライブで語り合います。さらに、学生、子供、家族などが自ら自分の「学校」を組織できるようにする。

・「作る」テーブル～「まちの作業台(ワーキングコミュニティ) + 資源循環センター」



学内、街中のリユース素材を集積、整理、循環させる施設。デンマークのクリスチャニアでは70年代から資材循環センターを自主運営し、町中の不要な資源を譲り受け修繕し安く販売するシステムを開発。コミュニティ内で機能するだけでなく、市民も多く利用する環境考慮型のリサイクルショップとして有名。同時に工房も併設。

・「伝える壁」～「まちの回覧板+コミュニティラジオ」



巨大な伝言壁とローカルフリーペーパーなど、独自の情報交換と発信ができる場。壁を使用した定期上映会・@KCUAコミュニティ・ラジオ局

・「育てる庭」「交感する街」～まちの農園・フリー Arts マーケット



「市民農園」は生き甲斐や余暇の楽しみの創出だけでなく、緑地保全や自然教育の場として大きな役割を果たす。成果物を使った食にまつわる社会活動(食育等)との連携も。フリーマーケットは多くの種類の人々が集まり、交流する場として有効な企画であり、現代の経済社会へのカウンターカルチャーとしても機能する。地域の方々も様々な形で参加できる。

・ SUUJIN CENTER



崇仁地区の歴史にとって重要な春祭り、夏祭りの鉢・神輿の保存・展示のスペース。高齢化が進む地域の伝統を絶やさぬように、将来は、大学・学生が引き継いでゆくことも視野に入れて、「うおい館」「柳原銀行記念館」とも連携したコミュニティ・プロジェクトを模索する。

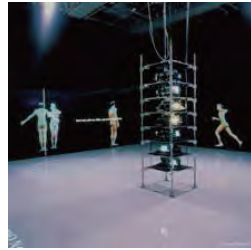
Floor 2

床 芸術であること
共感と記憶の創出の床 ~新たな価値を発信する文化のテラス



フルオープンな文化の場と、セミオープンなイベント・パフォーマンス・展示プロジェクト空間との複合階。

600㎡のセミオープンスペース~「全ての人が今までやってきたことを試される挑戦の場所」



固定壁と可動壁の組み合わせで、面積が可変的に使用でき多様なイベント・パフォーマンス・展示プロジェクトが可能となる。フルオープンな大テラスと繋ぐことで最大2000平米まで拡張できる。施設利用者にとっては、芸術の専門性による深度と領域を超え出る実験精神が問われる先端的な発表の場である。同時に、フロア1の@KCUA コミュニティプロジェクト、フロア3のアートラボも活用し教育・研究・地域連携が相互触媒となって成長する世界でも類のないプログラムが生み出される。



水辺のテラス~京の水辺を背景に演出される「ゆるやかな時間」の提供



テラスコンサート(辻音楽師)



能・狂言舞台

・テラス・コンサート

「祭り気分」で本格的なコンサートとは異なった趣の音楽に親しむことができる川辺のコンサート。

・The 伝音

京の歴史と風景の記憶を引き出す伝統芸能の野外公演。能・狂言・日本舞踊の他に、映像・メディアなど先端テクノロジーとの実験的なパフォーマンスも行う。

・コミュニティカフェ

人々が共同で運営する非営利自主カフェ。労働もコミュニティ創造の実験の要。運営方法も様々に開発されており、日替わりでマスターやカフェの形態を変える場合や、お客自体が労働に参加するセルフ方式、週末だけ開催するなど様々である。



コミュニティカフェ

Floor 3



房 大学であること
未来への問いと創造の房 ~生きる技術を統合するアートラボ

芸術の専門性に加え、暮らしの術・政策・環境・医療・科学・農業とのインクルーシブな創造研究

学内の特別研究助成ならびに、科学研究費など外部資金のサポートによる
中・長期的なプロジェクト



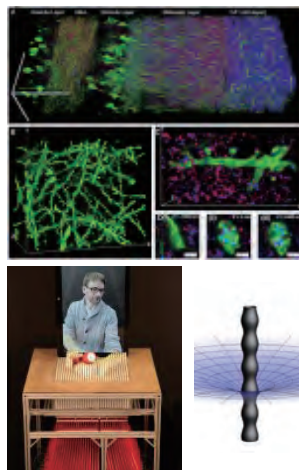
比較施設としては、カーネギーメロン大学 Studio for Creative Inquiry, MITメディア・ラボ, 英国国立美術大学インクルーシブデザインセンター, ミシガン大学メディア・ユニオン, 大阪大学コミュニケーションデザインセンター, 京都大学地球環境学堂, こころの未来研究センター, 京都大学デザインユニットなどが上げられる。

可視性の高い壁面で区切られた何もない空間で、実験・研究などの先端機器は、学外の研究機関とユニットを組み合わせることに対応する。大型基金による総合大学プロジェクトとは異なったコンパクトで先鋭的な企画を目指す。先行施設が設置される2020年に向け、現時点から5本程度のプロジェクト立ち上げを準備する。独立採算型のプロジェクトの運営は、法人化した京都芸大にとって、重要なドリルとなる。



大学内の横断的教育・研究の種となるように、博士課程のテーマ演習プロジェクトの立ち上げを検討する。また、若手の教員・研究員・博士課程の学生を分担者として入れておくことで、人材育成・キャリアアップとプロジェクトの継続性が可能となる。

プロジェクトの事例



- 文化人類学者と玩具デザイナーの共同研究から生み出される古くて新しい玩具のデザイン。
- 認知心理学者、作業療法士、アーティスト、ソーシャルワーカーの共同研究による認知症患者の記憶想起補助装置。
- ローカルメディア・テクノロジーの発掘と育成。地域の失われた技術・産業の発掘と先進技術による展開・文理融合研究。
- 生物学者、環境学者、音楽家の共同による森林環境保全計画の提案。
- 基礎物理学者とプロダクトデザイナーの共同研究による視覚化不可能であった時空モデルの作成。
- 文学者、造園家、脳科学者、都市デザイナーの共同による場面と歩行と物語性の配置・展開に関する研究。
- 伝統芸能と発達心理学と子育て・ジェスチャーとコミュニケーションに関する共同研究

多様な現場への回帰

即効的な社会貢献ではなく、長期的な展望に基づいた研究成果を目指す。また、Floor1の@KCUA コミュニティプロジェクトとも連環することで、多様な現場での応用・客観的評価・新たな問題の発見につなげる。



可能性としての古楽器ギャラリー

鑑賞だけでなく、作曲当時の楽譜を古楽器で演奏する時空の旅が可能となる。古楽器の出し入れが可能なガラスの柱を分散配置。必要に応じて展示と演奏両方に対応。

先行移転 Terrace #0 の施設と運営

1. Terrace #0 と大学会館・ギャラリーアクア

Terrace#0 は、洛西キャンパスの「大学会館」と「ギャラリーアクア」の機能を見直したものである。

大学会館 総面積3100㎡

- ・円形多目的ホール・音響・照明コントロール室・公演控え室・交流室・サロン・地下資材庫・ホワイエ・屋上テラス・屋外野外劇場
- ・コンピューター演習室・小ギャラリー・教材購買スペースは全館棟内設置する

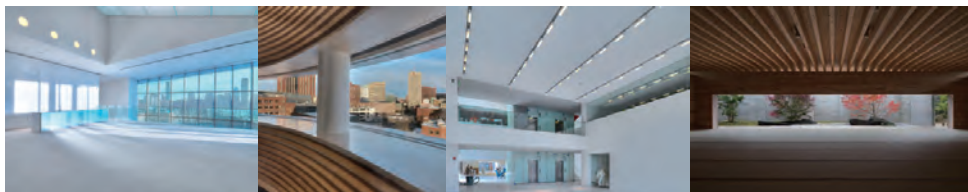
ギャラリーアクア 総面積1500㎡

- ・ギャラリー1・ギャラリー2・会議室・スタッフ運営室・搬入室・資材スペース・作業室・イベント情報スペース



Terrace #0 総面積5700㎡

- ・テラス多目的ホール・運営スタッフ室・キャリアデザイン室・資源循環センター・ワーキングスペース・ラーニングスペース・コミュニティー菜園・カフェスペース・古楽器ギャラリー・アーカイブ閲覧室・バザースペース・共同研究スペース・情報スペース



2. 運営と企画

「テラス#0運営委員会」＋プロジェクトチーム

外部資金を活用した複数のプロジェクトチームと、それらをつなぎ調整する「テラス#0運営委員会」（Creative Engage Center）による運営

企画

各プロジェクトチームによる企画、ギャラリーアクアのプログラムを中心とした定期的な企画、テラスコンサート、伝統芸能・伝統音楽の公演と演奏、地域コミュニティとの連携による企画など